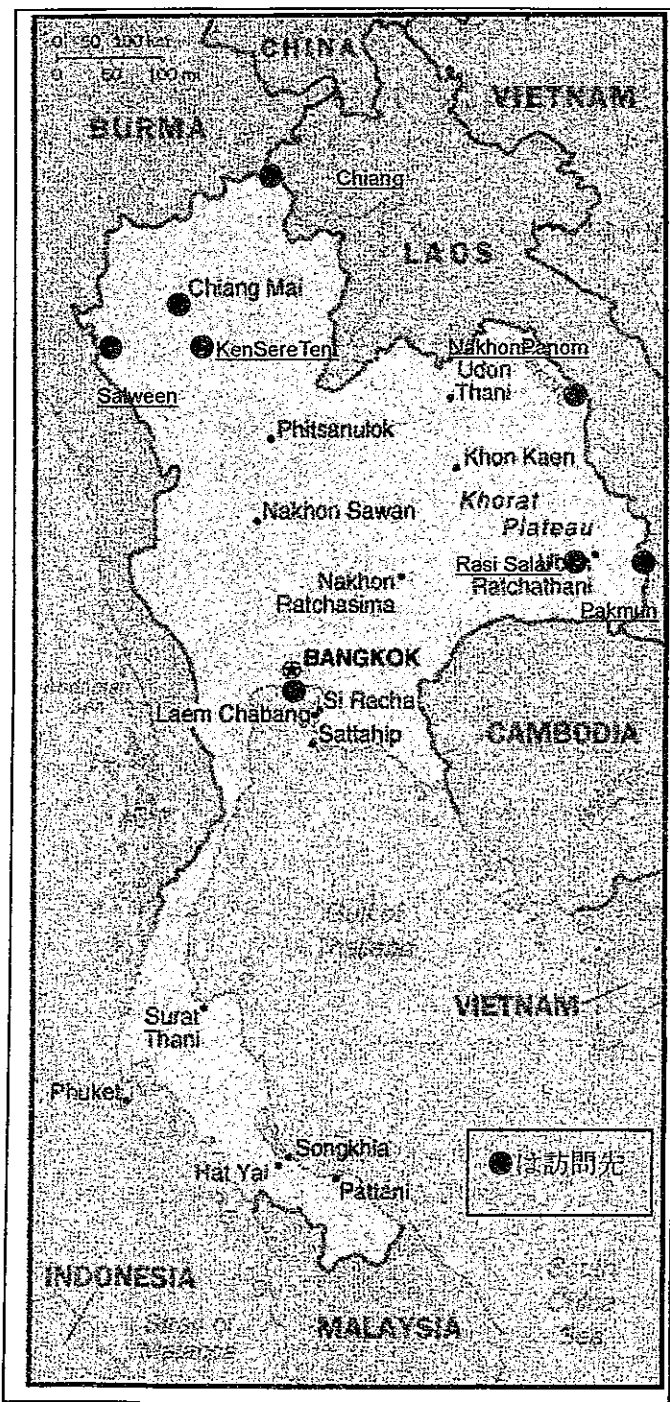


NGO は、日本の関わる海外での開発プロジェクトに焦点を当てて活動をしている。日本政府や関連機関への働きかけなどをするに当たっては、現地 NGO との連携による一早く正確な情報の把握や協力関係が欠かせない。SEARIN はメコンウォッチと協力関係にある NGO でもあり、ここ近年で成長しつつあるアドボカシー型、キャンペーン型の NGO である。FNA の活動は近年メコンウォッチとの連携が多い一方で、「現場」とのつながりが希薄であるとの思いがあった。また運営委員の転居による減少で、活動自体の担い手も決して多くはない。必ずしも現場を知らなくては活動できないわけではないが、それでも全体的な NGO 活動の中で一度 FNA の役割を考え直し、SEARIN の活動に触れることで FNA の今後についてのヒントを得たいと思い、今回のインターン申し込みへとつながった。



による減少で、活動自体の担い手も決して多くはない。必ずしも現場を知らなくては活動できないわけではないが、それでも全体的な NGO 活動の中で一度 FNA の役割を考え直し、SEARIN の活動に触れることで FNA の今後についてのヒントを得たいと思い、今回のインターン申し込みへとつながった。

タイ滞在中は、最初の1月を語学研修、残り2ヵ月半を SEARIN スタッフと共に過ごした。

昨年 11 月 27 日から 12 月 3 日には、東北タイのラーシー・サライにおいて「Rivers for Life : 命のための水 第 2 回ダム被影響住民とその支援者による国際会議」が開催された。米国に本部を置く IRN : 国際河川ネットワークと、開催国タイの SEARIN とで共催された、ダムに関する影響住民と NGO のための会議だった。第 1 回会議は、1997 年にブラジル・クリチバ市で開催されたその後世界ダム委員会 (WCD) を生む原動力となったが、今回はその 2 回目の会議だった。クリチバ以降の世界の動きを検証し、各地からの報告と被影響住民の交流、NGO としての情報共有と共同戦略づくりが行われた。

日本からは、メコンウォッチや FoEJapan、JACSES、水源連（水資源開発問題連絡協議会）、コトパンジャンダム住民訴訟を支援する会、それに川辺川を守る漁民有志の会から 10 名ほどが参加した。会期中、私は多くのボランティアスタッフと共に会場裏方を手伝い、合間を見てセッションに参加したり、川辺川からの参加者のサポートをした。特に今回の会議には、FNA も活動の一環として応援している川辺川から吉村勝徳さんが参加されていた。私は川辺川ダム問題についてのパネル展示やパンフレット作りや、吉村さん和其他の参加者との交流を語学の面でサポートすることができた。会議では当然ながら、ADB、JBIC という言葉を頻繁に聞き、参加者の間でも「日本＝無駄なダムプロジェクトの出資者」というイメージがある中で、ODA と良く似た構造で国内でも苦しめられている川辺川ダムの現状や影響住民の思いを伝えることができたのは、川辺川住民、参加者の双方にとってよい経験となったと思う。

このダム会議の後、私はバンコクからチェンマイに移動し、SEARIN スタッフの活動に同行させてもらった。SEARIN は事務所をチェンマイに持っているが、各地のコミュニティに常駐スタッフを数人置いている。SEARIN では現在、6つの地域でタイバーン調査という、村落参加型社会環境影響調査を行っている。常駐スタッフは地元コミュニティや住民グループ、またリサーチャーと呼ばれる漁業など様々な分野に卓越した村人と共に活動している。また、常駐していないスタッフもそれぞれに担当しているコミュニティがあり、年中忙しくタイ国内を走り回っている。私は、SEARIN 事務所において日常業務や活動内容についてスタッフに教えてもらったり、事務所2階の資料を読んだりするほかは、このスタッフたちが各コミュニティで行うタイバーン調査のワークショップを見学させてもらった。

北部・東北部への調査に参加させてもらったことで、それぞれ異なるタイのダムや水資源開発問題の実情や、その中で SEARIN がどのような働きをしているかを知る機会となった。それぞれのサイトについての状況を以下にまとめた。

SEARIN によるタイバーン調査地域概要

1) パクムン(ウボンラチャタニ県)

時期 2001年6月～2002年8月まで実施

概要 ダムは 1994 年に完成。ダム水門が調査のために一時的に開放された際、政府委託のウボンラチャタニ大学による調査に対するカウンター調査として、SEARIN とコミュニティにより、初めてタイバーン調査が実施された。水門一時開放期間は終わりタイバーン調査も一定の結果を出したが、政府は年に 4 ヶ月限定での水門開放を決めた。SEARIN はタイバーン調査後のフォローアップと、引き続き水門の永久開放を求めてコミュニティの人々を支援している。

2) ラーシーサライ(シーサケット県)

時期 2003年初めに開始、現在も調査中。

概要 ダム完成後河川生態系への影響や塩害などが起きたため、住民たちは水門解放を要求。東北夕

イではバクムダムに続く大きな運動となった。現在ラーシー・サライダムの水門は開放されているものの、タイ政府は水門解放を恒久的なものとしていない。そのためタイバーン調査を実施することとなった。

3) シーソクラム (ナコンパノム県)

時期 2003年10月～現在も調査中。

概要 メコン川支流ソクラム河口に EGAT によるダム建設計画があったが、5 年前に凍結。ダム計画がいつ復活するか分からないこともあり、IUCN とナコンパノムの環境ネットワーク組織である NECC が生態系調査を行うことになった。SEARIN はコンサルタントとして関与。

4) チェンコーン

時期 2003年3月～

概要 中国雲南省のメコン川上流 (Langcang 川) に8のダム建設計画がある。現在2つは完成し、3つめに着工されている。中国とタイ政府による計画でダムによる負の影響はないという調査結果を出した。またメコン河本流では流域国間の自由航行条約により、大型船通行のための岩礁爆破が行われている。この影響で近年川の流れが劇的に変わりつつあり、河岸侵食や異常な水位変化、魚類の減少が指摘されている。SEARIN はその影響を受けている北タイの4つの村で、地元のチェンコン自然保護ネットワークと共にタイバーン調査を行っている。

5) ケンサテン (プレー県ドンチャイ村)

時期 2004年1月～1年間の予定。

概要 ケンサテンダムは RID による多目的ダム。現在は未着工だが政治家や下流の住民による推進の動きが強い。当初は EGAT による発電ダムだったが、後に目的が変更されて洪水防止、灌漑が目的に加わっている。ダム推進に

は、この地区の良質のチーク材伐採に関わる利権もからんでいる。昨年半ばにケンサテンダムのコミュニティの代表がチェンマイの SEARIN オフィスを訪ね、タイバーン調査実施への協力を依頼した。2004年1月11日、12日の2日間、ケンサテンにおいて SEARIN や他のタイバーン調査実施地区関係者によるワークショップが開催され、タイバーン調査が開始された。水没予



ケンサテンにて

定地は、プレー県とパヤオ県の 15 余りの村。

6) サルウィーン (メーホンソン県)

時期 2003年始め~2年間

概要 サルウィン川沿いに12のダム建設計画があり、そのうちの2つはタイ-ビルマ国境に予定されている。特に上流ダムは堤高 160m と大規模で、2つのダムによりビルマ側を含むサルウィン川本流支流の広い地域が水没予定地とされている。この地区はタイ-カレン族の土地で、国立公園、自然保護地区(ワイルド・サンクチュアリ)に指定されている地域でもある。ビルマ側ではビルマ政府とカレン族との間の紛争が絶えない。EIA は行われておらず、住民への情報開示も行われていない。河岸農業や漁業、多様な生物の生態系への影響などに加え、特にビルマ側水没住民への補償等が一切ないことなど多くの問題がある。日本の電源開発がプロポーザルを書いた。このダム計画は、ASEAN 電力網計画の一環として行われようとしており、完成すれば東南アジア諸国にタイが売電し、外貨獲得手段としてまた電力不足を補うために使われる。

SEARIN でのインターンシップは、私にとって2つの側面から興味深いものとなった。一つは、ADB や ODA と言った、日本と関連の深いプロジェクトをタイ国内からモニターしている NGO の活動を知るという意味においてであり、二つ目は、ダム問題のあるコミュニティを支える NGO としての役割を知るという意味においてだった。

SEARIN での2ヶ月間に感じた SEARIN の活動での印象的な点をいくつか上げると、

- ・スタッフの若さと意欲。ボランティアの活用
- ・研究者が理事として関わることによる社会からの信頼、大学への人の輪の広がり、学生・院生とのつながり



サルウィーンにて

- ・コミュニティや地域住民組織、地域NGOを支えるというSEARIN自身の役割の認識
- ・地域の問題を国際レベルにつなげる際のSEARINの役割
- ・メディアを利用した積極的の市民啓発

などが上げられる。

的確な活動プロジェクトを作りファンドを得て資金を作り、意欲ある有能なスタッフをきちんと雇うという形での活動が軌道に乗っているというのが、現在のSEARINであるという印象を受けた。資金的にはOxfam Americaから助成を受けて2年目に入り、活動資金の半分を得ていると言う。インターン期間の終わりに、今年度の助成申請プロジェクトに関する英文資料を得たので、それを読み込み自分の得た情報と合わせることでもう少し具体的なSEARINのビジョンや現在のプロジェクトを知るようになるだろう。

またSEARINは現在メンバーシップを取っておらず、海外から助成金を得て活動を展開しているが、それもまた一つの活動展開手法だと思われた。ニュースレターを発行していないがメディアへの投稿を積極的に行い、新聞や雑誌に投稿して多くの人目に触れることで効果を上げることを目指していることも、FNAやジュピリーなど日本の現在のNGO活動とは多少異なると考えられた。団体紹介パンフレットもないが、一つは活動にまだ余裕がないことに加え、それほどの必要性を感じていないということもあるようだった。この違いはタイと日本の市民社会の違いということによる部分もあるかもしれない。

タイバーン調査について各地を訪れることができたのは大変良い経験となった。ODAやADB、WBに関係あるなしを問わず、タイのダム事情を知ることができ、そういった運動とSEARINがどのように関わっているか、どのように支えているかを知ることができた。

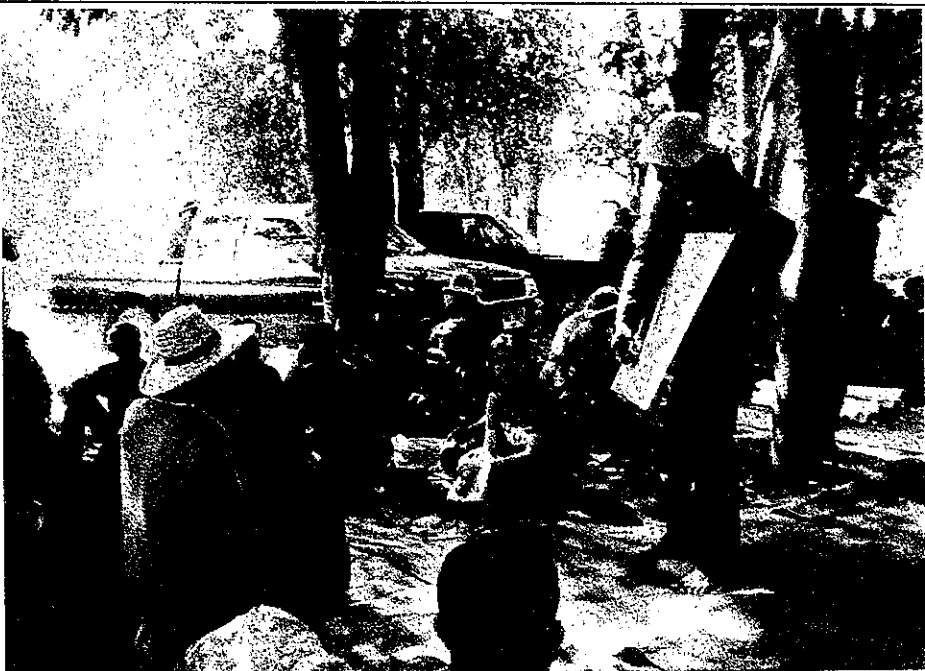
タイバーン調査を生み出したことは、SEARINの活動において特筆に値する。まだまだ未知の部分の多いメコン川、サルウィン川、チャオプラヤ上流における環境や社会的な川との関係、伝統的な資源管理方法や自然に関する伝統的知識については、地元住民が豊かな知識を有していることをタイバーン調査によって証明し、政府に対する独自のツールとして活用しようとしている。これまでの環境影響調査は政府側のみによるものであり、研究者中心でかつ意図的にゆがめられることも少なくなかった。それに対し、村落参加型生態系調査を実施することは、政府側の調査のみに頼らずに済むこととなり、住民自身を主人公とし、また結果を地域に残すことができる。もちろん政府やダム建設側に対するカウンター調査としての意味合いも大きい。

これまで、いわゆる開発を推進する側からはあくまで「開発される対象」としか考えられて来なかった人々自身が、主体的に川や開発について考えるという概念は、比較的新しいものであり、今後開発の分野でますます必要とされると考えられる。村人主体で地域のあり方を考えることは、事業計画策定プロセスに影響住民が参画することと深く関連している。近年開発分野で新しく現れた概念の一つにリソースマネジメントという言葉がある。地域の資源を地域の人々が主体となって管理・マネジメントすることである。タイバーン調査は、住民自身による伝統的・持続可能な形でのリソースマネジメントを記録し、人に伝えるための媒体に落とす作業とも言える。

SEARIN は現在タイバーン調査に力を入れており、その為にスタッフの半分を調査実施地域に住まわせ、事務所のあるチェンマイを拠点として活動している。リサーチ・アシスタントやスタッフとコミュニティとの信頼関係が非常に重要である。スタッフを地域に常駐させるのは、きめ細かいフォローや調査を行う上で欠かせない条件であり、それはまた、地域との信頼を築く上でも大きな役割を果たしていると感じられた。実際に各地域に常駐しているスタッフは、熱心かつ意欲的に働いているという印象を受けた。若い男性、女性があり、町での生活に比べると決して快適な住環境ではないが、村人と共に誇りを持って仕事をしているように感じられた。また学生ボランティアも熱心に関わっており、通常のスタッフと共に活動に参加していたことも印象深かった。

タイから1月末に帰国し2ヶ月になるが、恥ずかしながら日常に追われて、現在はまだその成果を十分にFNAの活動に反映することができていない。SEARINとは今後もぜひ連絡を取り続けていきたい。またSEARINで学ばせてもらったことを国内での活動に活かしていくことが、広い目で見たい恩返しになると考えている。まずはSEARINでの学びを広く共有したく、今回のOpen Accountでの報告としたい。

最後になったが、今回のインターンではSEARIN代表のFiatを始め、理事のAjaan Chayaan、スタッフのPai、Teen、Au、Joeたちなど多くの人々に大変なお世話になった。また極めて多忙中、SEARINへ私を紹介し常に適切な助言を以って叱咤激励して下さいました土井利幸さんには、このような貴重な機会を得ることはなかった。この場を借り、今回の経験を支えて下さったすべての方々にお礼を申し上げます。



ケンサテンにて

新ODA 大綱に関する申し入れおよび質問書に対する外務省の回答 ●●

2003年10月、ODA改革ネットワーク・東京が取りまとめ、外務省に対して申し入れを行った「新ODA大綱に関する申し入れおよび質問書」について、2004年1月、外務省が回答を出しました。この回答の1部を転記します。

FNAはこの「質問書」の呼びかけ団体となっています。また、「新ODA大綱」に関しての意見、福岡で開催された公聴会の報告などについては「オープン・アカウント12号」を参照してください。

●● 楠原圭子（くすはら・けいこ=事務局）

〈質問書の内容〉 1. ODA大綱見直しのプロセスに関して

1) ODA大綱見直しに関して、対外経済協力関係閣僚会議は「幅広い国民的議論を十分に尽くしつつ検討を行う」こととしていましたが、今回この要件は満たされたとお考えですか？

〈外務省の考え〉

今回のODA大綱の見直しにあたっては、政府部内における検討に加え、有識者、実施機関、NGO、経済界等とも多くの意見交換を行い、ODA大綱政府原案を作成しました。作成された原案についても、パブリックコメントや公聴会の開催を通じて幅広く意見の聴取に務めました。外務省としては、幅広い国民的な議論を十分に尽くしつつ検討を行ったと考えています。

〈質問書の内容〉 2. 国益重視による悪影響に関して

2) 援助受け取り国の人びとへの影響について

③新大綱の目的で言及されている「日本の安全と繁栄」を優先した場合、援助を受け取る側の人びとに不利益が生じる可能性があります。現地のニーズに的確に応え、効果・効率的な援助をどのように確実にするつもりですか？

例えば円借款のタイド（「ひも付き」）率は2000年に34%と急増しましたが、新大綱の下で今さらに加速することが懸念されます。それによって、高費用、不適切なモノ・サービスの提供、談合や腐敗の可能性が大きくなります。また、経済インフラや民活インフラ案件の増加により社会・環境への深刻な影響が拡大する恐れがあります。こうした経済・社会・環境コストを途上国に負担させることは、「良い援助」を実施しているとはいえません。

〈外務省の考え〉

新しいODA大綱においては「『日本の安全と繁栄』を優先」するなどというようなことは言及されておりません。我が国としては、政策協議の強化や現地機能の強化を通じて、現地のニーズに的確に応え、開発途上国の真に必要とする協力を行っていく考えです。

円借款に関しては、原則アンタイドであり、タイドとし得るものについても、国際的なルールに基づき明確に示されており、今後、急激にタイド率が上昇することは考えにくいと思われます。現在、タイドとし得るのは本邦技術活用条件を用いた案件だけであり、これら案件については、我が国の優れた技術やノウハウを活用することで途上国への技術移転が期待できると考えています。また、調達にあたっては、調達ガイドラインに基づき、透明性・公正性を確保しており、不正行為があった場合には一定期間の措置を実施しています（入札に関するガイドラインについては、<http://www.jbic.go.jp/japanese/oec/guide/index.php>を参照）。さらに、ODA事業の実施に際し、事業実施主体による環境・社会面への配慮を確認することは極めて重要と考えており、環境・社会面への配慮確認を一層強化した「環境社会配慮確認のための国際協力銀行ガイドライン」をステークホルダーの参加を得て策定し、昨年10月以降は同ガイドラインが全面的に施行されています。

以上、1部抜粋

・（*回答書全文をご覧になりたい方はFNA事務局へご連絡ください）

ご案内

オホーツクの風に舞う～「サハリン・オオワシ写真展」

(共催：国際環境 NGO FoE Japan, 北海道ラプターリサーチ)

「極東の楽園」を知らない方へ、そして「楽園」が失われつつあることを知らない方へ

会期：2004年4月5日(月)～4月13日(火) 10:00～20:00

会場：博多リバレイン地下2階「にぎわいプラザ」

(福岡市博多区下川端3-1 地下鉄中洲川端駅直結 西鉄バス川端町バス停すぐ)

*** 入 場 無 料 ***

極東ロシア・サハリン島の豊かな自然の中に生息するオオワシは、知床に飛来する日本の天然記念物で、レッドリストに記載されている希少種でもあります。

しかし、現在、サハリンでは石油・天然ガス開発事業が進行中で、このためオオワシをはじめとする多くの野生生物に深刻な影響を与えることが懸念されています。

今回、北海道ラプターリサーチ、FoE Japan のご協力によりサハリンの自然・オオワシの優美な姿、開発の現状をご紹介致します。

みなさまのご来場をお待ちしています。

*前回 13 号でお知らせしておりましたダニエル・ピアードさん講演会(3月25日)は、ピアードさんのご都合により来日が中止となり、ジェームズ・F・ジョンソン氏が来日されました。

本のご紹介

『 コーヒー危機—作られる貧困 』

オックスファム・インターナショナル=著 日本フェアトレード委員会=訳 村田武=監訳

筑波書房 2003年 1000円+税

なぜコーヒーの価格は暴落したのか？生産者の生活はどうなっているのか？一方で4大コーヒー会



社は莫大な利益を上げている現実。ではどうすればいい？—この本では問題提起に留まらず、行動提案も示しています。「もしグローバル化が貧しい人たちのものであるべきならば—もし、貿易が貧しい人の役に立つべきものならば—、貧しい人々がコーヒー市場の動向によって、現在直面しているような状況に陥ることはなかっただろう。もし、そうであるならばこんな事態にはならないはずである。(本書より)」

(ブラジルだけでなく、ベトナムもカギのひとつだったなんて・・・。安くコーヒーが飲めるとうれしい、でもそれは適正価格じゃないのか？インスタントコーヒーのNと街角のSB はどっちがマシなんだろう？：k)

2003年12月

26日(金) オープンアカウント13号発送

2004年1月

《賛同》「マレーシア・ケラウダム建設計画への円借款供与の再考を求める要望書」

(とりまとめ: FoE-Japan)

<http://www.FoEJapan.org/aid/jbic02/kelau/letter/20040108.html>

2月

3日(火) FNA 運営委員会(あすみん)

29日(日) 講演会「サハリン開発を知っていますか」講師・神崎尚美さん(ココロンセンター)

《賛同》「怒江(サルウィーン川上流)ダム開発に関する中国政府への要望書」

(とりまとめ: International Rivers Network)

3月

5日(金)「タイのダム開発と私たちの暮らし」～てらしまーな(寺嶋悠)のNGOインターン報告(あすみん)

16日(火) FNA 運営委員会(あすみん)

20日(土) BeGood Cafe 福岡 参加(バイサイドプレイス博多埠頭)

《賛同》「ADB 情報公開政策に関する要望書」(とりまとめ: Bank Information Center)

http://www.bicusa.org/bicusa/issues/transparency_at_the_asian_development_bank/index.php

講演会「サハリン開発を知っていますか」(2月29日) 感想

鈴木 恒(すずき・ひさし=事務局)

FNA のメンバーでもある神崎尚美さん(FoE Japan)が現在取り組まれている問題の1つがサハリンにおける石油・天然ガス開発プロジェクト。このサハリン開発の問題を神崎さんが講演してくださいました。カンカン(神崎さん)にゆかりのある人を中心に約20名の参加者がありました。

ここで生産される資源は九州電力にも買い上げられる予定。JBIC(国際協力銀行)の融資や日本にも飛来する天然記念物のオオワシへの影響など、私たちの暮らしとも密接な関わりがあります。サハリンIIの事業主体であるサハリンエナジー社(SEIC)による環境影響調査(EIA)と日露専門家による共同調査に隔たりがあるなど、問題点は様々です。(開発の問題点の説明はココでは無理なので、FoE Japanのウェブサイトでチェックを)



手付かずの美しい自然が今でも残るサハリンで行われている大規模な開発は日本ではほとんど報道されることもなく、世間での認知度は極めて低い状況です。私たち人間の便利な生活と引き換えに犠牲となるのは何千年も変わらぬ生の営みを続けている動植物たち。このような問題をFNAでも引き続きウォッチしていくことは意義のあることだと思います。

ニュースちよつと読み

ADB に関するものを中心に情報を集めました。詳細についてはそれぞれの連絡先まで。

「ADB2004 年度年次総会 (韓国) 情報」

—ADB http://www.adb.org/AnnualMeeting/2004/participation_ngos.asp

「ADB Public Communications Policy (PCP)草案発表」(2/28ADB)

—ADB <http://www.adb.org/disclosure>

「ADB 情報公開政策についての申し入れ」(3/20Bank Information Center(BIC))

—BIC http://www.bicusa.org/bicusa/issues/transparency_at_the_asian_development_bank/index.php

「アジア開発銀行が「日本基金」(MDBs Update 04/03/19) —JACSES jacses@jacses.org

「JICA が『タイ国別援助研究会報告書』を発行」(1/23FNA-ML) 03年12月発行分、以下のサイトで公開 —JICA <http://www.jica.go.jp/activities/report/country/index.html>

—JICA <http://www.jica.go.jp/english/publication/studyreport/index.html> (総論編・英文)

「大メコン圏 河川交通の再評価」(1/22 メコン・ウォッチML) South China Morning Post 2003/12/16 より

「ストップ! ヒンクルート&ポーノーク 16 トーメンが撤退」(3/2 メコン・ウォッチML)

「メコン電力網 ADB が反論」(3/15 メコン・ウォッチML) AFP2004/1/30

「中国雲南調査英文ブックレット発行」(3/23 メコン・ライブラリー) Lancang - Mekong — A River of Controversy— (瀾滄江-メコン 論争の河)

—以上 メコン・ウォッチ ホームページ (<http://www.mekongwatch.org/>)

「チャシュマNGO現地レポート発表」(3/24ODA-ML)

—BIC <http://www.bicusa.org/bicusa/issues/asia/1373.php>

—ADB http://www.adb.org/Inspection/Projects/chashma_right.asp

—JACSES <http://www.jacses.org/sdap/chashma/index.html>

—チャシュマ・ストラグル <http://www.chashma-struggles.net/index.html>

「サハリンII石油天然ガス開発EIA 検証レポート要約」(2/24FNA-ML)

—FoE: <http://www.foejapan.org/aid/jbic02/sakhalin/index.html>

—北海道野生生物保護公社 <http://www.marimo.or.jp/~wbp/Index.htm>

—Pacific Environment <http://www.pacificenvironment.org/russia/sakhalin.htm> (英)

—Sakhalin Environemt Watch <http://www.sakhalin.environment.ru/en/> (英)

「サハリンII石油ガス開発 コククジラ訴訟」(3/18ODA-ML) サハリンインディペンデント3/12-26

—http://sakhalindependent.com/IMAGES/environment/gray_whale_lawsuit_filed.htm

—FoE-Japan <http://www.FoEJapan.org>

「パクムンダム記事 全地球化を生きる—メコンの恵み 生態系破壊に村人抵抗」(3/10 西日本新聞)

パンフレットご紹介

「ECA（輸出信用機関）をめぐる冒険」 制作・発行 債務と貧困を考えるジュビリー九州

ジュビQからのメッセージ：「ECAって何？」聞き慣れない方が多いと思います。要するに、ODA みたいに私達のお金を使っていて、ODA みたいに海外に日本企業が行くときに使われていて、ODA 以上に環境破壊や人権侵害を引き起こして、ODA みたいに途上国の借金のモトになっていて、さらに悪いことには ODA ではお金を出せないはずの原発関連や武器輸出（幸い日本はまだやってませんが）にも政府資金が使われてしまうこと。しかも、ODA ほどにはまだ市民の注目を集めていない、そのために情報公開もすすんでいないのです。（詳しくはパンフを読んでのお楽しみ）。



価格・無料！ 送料のみご負担ください。お申し込みは下記へどうぞ。

債務と貧困を考えるジュビリー九州 電話/ファクス 093-244-0284 e-mail: jubilee@windfarm.co.jp

（こんなムズカシイ話がゲーム仕立てになっています。ジュビQ渾身の1冊！：FNA 事務局談）

お申し込み・お問い合わせ・ご連絡は下記までお願いします。

〒810-0041 福岡市中央区大名2-6-46 福岡市立青年センター5階

福岡市NPO・ボランティア交流センター（愛称あすみん）気付 連絡ボックスNo.24 FNA 行
（郵便物には必ず「連絡ボックスNo.24」を明記してください。）

電話・ファクス：092-920-1873 （電話は留守番電話になっています。ご用件を録音してください。）

Eメール fna@minos.ocn.ne.jp ホームページ <http://www.geocities.co.jp/WallStreet/2253>

会員募集中！ 年会費（1口）・正会員5000円・学生会員3000円・購読会員2000円
入会を希望される方は、氏名・住所・連絡先（電話・ファクス・Eメールアドレスなど）を事務局にご連絡ください。

「オープン・アカウント」とは？

英語の「アカウント」には二つの意味があります。ひとつは「銀行口座」ですが、もう一つは「アカウントビリティ」の「アカウント」、「説明」です。従って「オープン・アカウント」は「開設された口座」と「オープンな説明」とのかけことばになっています。

私たちが ADB という公的金融機関を相手にアカウントビリティを求めていく目的で FNA の活動を始めたことから、ニュース・レターにこの名称を使うことになりました。ADB が口座開設（お金）にだけ腐心するのではなく、説明責任を果たす機関になってほしいと思います。

オープン・アカウント第14号（発行：2004年4月4日）

編集発行責任：FNA（アジア開発銀行（ADB）福岡NGOフォーラム）運営委員会 編集：楠原圭子